

2019年8月30日(金)

TJCAS 2019 参加報告

帝京平成大学 大学院 環境情報学研究科

教授

青木 均

1. 背景と参加目的

本学は工学系学部が存在せず、主に薬学系、医療系、文系（経営学など）である。大学院では、なぜか情報システム系が唯一存在するが、それが環境情報学研究科である。終了後は情報学修士・博士となる。そのような環境であるので、大学院で電子情報系を研究する教員、学生はまれである。しかし、今年度から一人私の研究室に所属している。彼は元が経営学部生であるため、4月から急ピッチで教育・研究を並列して行っているが、学ぶことが多く悲鳴をあげている。

その学生（八柄 源くん）に、「国際学会」で「英語」の発表を経験させるために、良い学会はないかと探しているところ、委員長の小林先生にお声がけいただき、喜んで参加させていただいた。ポスターセッションが主体であるところも、初心者にはありがたかった。

2. 参加したセッション

学会名称：2019 Taiwan and Japan Conference on Circuits and Systems (TJCAS

2019 at Nikko)

参加日：2019年8月20日(火)

開催場所：日光東照宮「客殿」

セッション：Plenary Talks, Session 1, Session 2

3. 感想

学生の発表内容については、八柄くんがレポートすると思うので、簡単に個人的な感想を述べさせていただきます。

本学では、研究のために教員が出張可能な時期が限られており（2月、3月、8月）、私は、この3ヶ

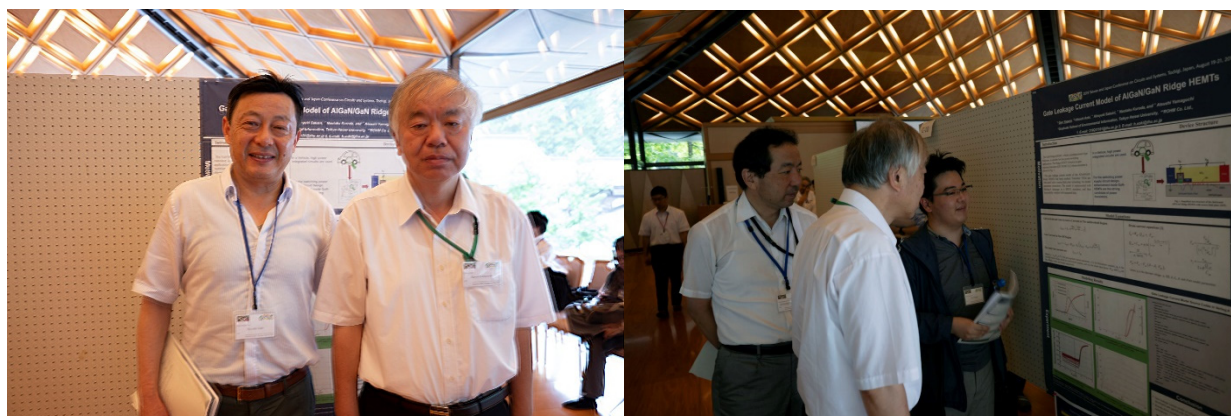
月に、主に欧米で開催される、IEEE主催のできるだけメジャーな国際学会で、論文発表を行うことにしている。私の専門である、半導体デバイスモデリングの研究は欧米で活発に行われているからだ。現在まで、毎年3件（APEC, RFIC, IMS, ICITなどで）発表している。

今年も2019 IEEE Flexible Electronics Technology Conference (IFETC 2019, Canada)で発表して、本学会開催日の2日前に帰国したため体調を崩し、8月20日のみの参加となってしまったので、申し訳なく思っている。

私にとって印象深かったのは、①久しぶりに小林先生と、学生と研究についてなどお話しできたこと ②IFETC 2019で論文発表された内容と関連するポスター発表（WPT, Biosensor）があったことであった。

① 委員長 小林教授

小林先生は、本学会開催に際して、土曜、日曜を含めて毎日細かく準備を進めておられた。我々プログラム委員の些細な質問に対しても、丁寧に対応していただいた。そのようなご尽力が、本学会の成功を導いたと思う。



② 電子回路の医療領域への応用

1A. Bio-Medical Applications、2B. Power Circuitsで発表されたポスターでは、フレキシブル・エレクトロニクス分野、すなわちフィルム上に構成されたセンサー回路と、それに電源を供給する技術が提案されていた。これらは、患者の身体に埋め込んだり、装着させたりして、24時間患者の体調を管理するために重要な研究である。カナダでIFETCの発表を聴講した際に、日本での状況を知りたいと思っていたので、有益であった。

4. まとめ

日本国内でも回路とシステム領域において、大学・大学院の学生が熱意をもって研究している様子がよくわかり感銘しました。また隅々まで行き届いた運営をしていただいた、群馬大学の関係各位に大変感謝いたします。